



10月7日(金)、北海道からのグループを迎えたツアーの様子(笛水みごちコース)

たかざきフットパス

市ホームページでは、2つのコースを動画とともに紹介しています。

※QRを読み込むか、または「たかざきフットパス」で検索ください



●大牟田せせらぎコース

約3.7km(約2時間)で、まちの人との会話と川のせせらぎを楽しむコース

●笛水みごちコース

約3.2km(約1時間40分)で、四季によって移り変わる風景を楽しむコース



高崎地区フットパス事業検討委員会

古川 辰昭 会長

地域の魅力が再発見できました

今回、北九州市立大学の学生さんや地域の皆さんとともに、フットパスのコースづくりに取り組んで、さまざまな気づきがありました。例えば、四季によって移り変わる風景を楽しむなど、今まで気付かなかった地域の魅力が再発見できました。

今後、高崎地区では各地域でコースづくりを進め、市内外から多くの皆さんを受け入れ、交流の輪を広げていきたいと考えています。一回限りの関係ではなく、末永く愛着を持ってもらえるよう、笑顔とおもてなしの心で高崎の魅力をお届けしていきたいです。

活気あふれる！ 地域活性化の取り組み

人口減少が進む中、市内では、地域活性化について住民自らが考え、行動するという意識が根付きつつあります。まちづくり協議会や自治公民館、NPO、各種団体などによる、主体的で意欲的な地域活性化の取り組みの中から、今回は「たかざきフットパス」を中心に紹介します。

◎問い合わせ 地域振興課 ☎23-7146
高崎地域生活課 ☎62-1111

誰かがやってくれるのではなく、自分たちでやろう

全国的に、若年層の減少や高齢化の進展により、地域の人材不足や絆の希薄化が進み、活力の低下が危惧されています。このため、誰もが安心して住み慣れた地域で暮らせるよう、住民やさまざまな団体、行政などが積極的に協働の取り組みを進めています。

本市でも、住民主体のまちづくりを進めるため、平成22年度から各地区でまちづくり協議会が設立。同25年度からは、地域の課題解決を後押しするため、都市地域活性化事業を展開しながら、地域の力で課題を解決する取り組みを支援しています。

例えば、祝吉地区では、生活困窮者への食の支援や居場所づくりを目的とした「スマイルカフェ祝吉事業」を実施。また、五十市地区では、「イルミ&アートフェスタ」と題した地域のにぎわい創出に取り組んでいます。さらに、庄内地区では、まちづくりに高齢者だけでなく、30代、40代の世代を巻き込むために、交流拠点「みーとん」をつくりました。この拠点を中心に「このまちに住みたい、このまちが好き」という気持ち

地域の魅力をフットパスで発信

高崎地区では令和3年度から、北九州市立大学と連携しながら市内初のフットパス事業の取り組みを始めました。

フットパス(Footpath)とは、イギリスを発祥とする「森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩く(Foot)ことができる小径(Paths)」という意味で、全国各地で活動が盛んになっています。フットパスの特徴は健康のためのウォーキングとは異なり、参加者自らが地図を元につくりとしたスピードで地域を歩くことにあります。

フットパスを通じて、高崎地区の美しい風景や旬の食材など、その魅力を発信していけるよう、地域の皆さんが笑顔とともに参加者を快く受け入れる準備を進めています。

※11月2日(水)放送予定のMRT「幸せ上々みやこのじょう」で紹介



ツアーに参加し笑顔を見せる北九州市立大学の学生



北九州市立大学地域創生学群長

内田 晃 教授

フットパスは地域を元気にする

北九州市立大学地域創生学群では、平成26年度から福岡県の中間市や築上町などでフットパスによる地域活性化に取り組んでいます。学生らが地域を歩き、住民とのコミュニケーションを図りながらコースづくりを行い、併せてSNSなどでの積極的な魅力発信によ

て、交流人口の獲得につながっています。この知見などを生かして、昨年度から高崎地区のコースづくりにも参画しています。今後、地域に住む皆さんと外部からの来訪者による対話が生まれ、特産品などの周知につながり、地域全体が元気になることを期待しています。